

平成十二年歌会始御製御歌及び詠進歌

時

御製

大いなる世界の動き始まりぬ父君のあと継ぎし時しも

皇后陛下御歌

癒えし日を新生となし生くる友に時よ穏しく流れゆけかし

皇太子殿下

はるかなる時空を越えて今見ゆる星の世界をすばるは探る

皇太子妃殿下

七年をみちびきたまふ我が君と語らひの時重ねつつ来ぬ

文仁親王殿下

霧わたる今帰仁村のあかときに時告げの鶏高らかに鳴く

文仁親王妃紀子殿下

本をひらき静かにすごす我と子のこころなごめり午後のひととき

清子内親王殿下

時空こえて宇宙のあなたに吾をまねくすばるより見し青き星雲

正仁親王殿下

刻々と潮みつる時せまりきてしぎはおりたつ谷津の干潟に

正仁親王妃華子殿下

新^{あら}た世は豊かにあれとあかときの部屋にしづかに我は祈りぬ

崇仁親王妃百合子殿下

時の間も惜しみて宮は究めます学びの道をなほ深めむと

寛^{ともしと}仁親王妃信子殿下

まじまじと夜ねむらえず森の方にふくろふ鳴きて時計一時をうつ

憲仁親王殿下

新嘗の衛士の焚く火をみつめつつ古の時へ思ひをはする

憲仁親王妃久子殿下

賑はひし往時のさまを偲びつつ熊野古道の石段のぼる

召人 可部恒雄
病める日も清さやけき時ときもともにゐて妻と迎むかふる新あたらしき春

選者 武川忠一
うら若わかき時ときをわけあふ森の梢しんよみがへり来きよ山やまはふるさと

選者 安永露子
ゆりかもめ渡りの時ときをはれやかにくれなゐの脚あしのべて降りくる

選者 岡野弘彦
世の末すえの長夜ながよのねむり覚さめゆけとあかときかけてわが祈いのるなり

選者 岡井 隆
歌ことば積たみたる船ふねが笛ふえ鳴らし岸しをはなるる時とき近づちかづきぬ

選者 島田修二
あたらしき時とき世よのごとくひとむらのあしたの雲くもをながくみまもる

選 歌 (詠進者生年月日順)

ブラジル国 神津 正
パラナ州

移りすんでラテンの國くにに老おいしいまときに信濃しんの夢ゆめをみるかな

京都府 宮艸万壽夫
二百年ふたひゃくねんのときをつぶさに見てきたる大櫓おほなり風かぜにしたがふ

奈良県 佐藤多美子
昨日きのうよりもなほ低ひく垂たる苦く瓜りゅうの内に充みちゆく時のしづけさ

兵庫県 小西博子
煮立につ湯ゆにさつと水菜みずなのみどり冴さゆひとり美うしき時ときの間まをゐる

兵庫県 清永司郎
不安なるときが拡がりをもちてくる或る夜しきりに未来を覗く

埼玉県 杉田昌美
霽降る柵に繋がれ時を待つ流鏑馬の馬白く息して

山口県 岡林鎮雄
「ひらひら」といふ語教へてひと時を留学生らと花吹雪浴ぶ

奈良県 前川隆夫
時はいま満潮のごとみちみちて四十余年の職辞するなり

奈良県 油谷 薫
渡りゆく時をはかりてゐるらしき燕の群が雨に濡れをり

佐賀県 中尾裕彰
指先に打鍵の重さ兆しつつシヨパンの「革命」弾くとき迫る

佳 作 (詠進者生年月日順)

群馬県 月門貞昌

砂時計五たび反してさはやかに卒寿の吾の湯浴み済みたり

東京都 増島とし

冬瓜をあをく透くまで煮ふくめて今宵ひとりの時間ゆたけし

福島県 鈴木フミ

草鞋履きみの笠を着て働きし時代の世紀と別れ惜しみぬ

千葉県 高橋タカ

人ごみのかげに遠のく君の背の見えずなりたるときに涙おつ

徳島県 中野昭子

め刈り舟沖よりもどる時をよみ先づは水槽に水はりて待つ

神奈川県 相原トキエ

何時の日かわれの臓器を引き継ぎて生くる人あれ静かに湯浴む

北海道 持田ミエ子

一途なることも暗愚に至るとき傷みとなりて帽深くかぶる

福井県 山田範子

濁流に耐へたる稲も時おくれ穂の出ではじむ峡のひかりに

京都府 浅野達子

それぞれがイヤホン付けて自国語に聴きいる会場同時に笑ふ

新潟県 鈴木一彦

ゆふしほのさかのぼる時川の面に橋脚灯のひかりふくるる

愛知県 石川明子

ナースステーションを残して徐々に隣棟の灯の消ゆる時恋ひしちはは

台湾台北市 三宅教子

樂しかる集ひの時の疾く過ぎてなべては夢のごときたそがれ

東京都 三木谷美和

果てしなき時空をこえていまとどく星かげさやかわれはささやか

東京都 天野美生

ずんずんとせり出してくる我がおなかあなたに会へる時を待ちわぶ

愛知県 神谷隆之

夕暮れて影細長く見える時ひとりゴールにシュート打つ人